第34回 全日本中学生水の作文コンクール

和歌山県入賞作品集

熊野川

表紙の写真『**熊野川**』（和歌山県ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　ﾌｫﾄﾗｲﾌﾞﾗﾘｰより）

太古より多くの人々を惹きつけてきた熊野の森。

光と陰の世界が、訪れる人々に神秘的な力を感じさせてきました。

熊野信仰の中心である熊野本宮大社への参詣道のひとつでもあった「熊野川」は、まるでそれらの不思議な力が注がれているかのように、様々な表情を見せてくれます。

あいさつ

水は、あらゆる生命を支えるとともに、私たちの暮らしや、農業、工業などの産業活動を支えている限りある貴重な資源であります。一方、近年では、世界的に渇水、洪水が頻発し、水利用の安定性や安全で良質な水資源の確保が重要な課題となっています。

その「水」への理解を深めていただくため、八月一日を「水の日」と定めその後の一週間を「水の週間」とし、全国で様々な行事が実施されています。

和歌山県としても、限りある貴重な水資源を未来へ引き継ぐため、次世代を担う中学生を対象とし、日常生活での体験や両親、先生から学び聞いた話などをもとに、今一度水を見つめる啓発活動として、昭和五十四年度から「全日本中学生水の作文コンクール」を実施しております。

今回は、県内から三六七編の応募をいただきました。「水について考える」というテーマにふさわしく、昨年の東日本大震災、台風十二号、身近な植物の様子、海外の水事情などに視点をおいて、つい忘れがちな水の怖さ、大切さについて表現された作品がたくさんありました。

このたび、入賞作品十八編を作文集にまとめましたので、ご一読いただき、家庭や学校において、限りある資源である「水」ついて、関心を高め理解をより深めていただくことを願っています。

最後に、本コンクールに応募された中学生の皆さんと、ご担当いただいた先生方に厚くお礼申し上げます。

平成二十四年八月七日

和歌山県企画部長　野田寛芳

もくじ

優秀賞

節水の大切さ　田辺市立上秋津中学校　二年　上舎　愛実　・・・１
水について考えたこと　近畿大学附属和歌山中学校　一年　髙橋　亜里紗　・・・３
水と共に生きる　和歌山県立田辺中学校　三年　中岡　優依　・・・５

入選

人と水　近畿大学附属和歌山中学校　二年　庵野　真代　・・・７
キレイな水を後世へ　紀美野町立美里中学校　三年　宇城　美月　・・・８
水問題について　和歌山県立田辺中学校　三年　片井　和歌子　・・・９
表と裏　近畿大学附属和歌山中学校　二年　栗本　実季　・・・１０
水が出る喜び　紀美野町立美里中学校　三年　紺谷　文香　・・・１１
今、できること　近畿大学附属和歌山中学校　二年　雑賀　智菜実　・・・１２

水を大切にする　和歌山県立田辺中学校　三年　出﨑　千晶　・・・１３
水の作文　田辺市立上秋津中学校　三年　中川　莉渚　・・・１４
水を守ることによって　海南市立東海南中学校　一年　名手　悠記　・・・１５
水　和歌山県立田辺中学校　三年　輪玉　衣里　・・・１６

佳作

水が減っていく問題　紀美野町立美里中学校　二年　大野　まり　・・・１７
水の力　和歌山県立田辺中学校　三年　北　彩乃　・・・１８
水の惑星　田辺市立上秋津中学校　二年　鈴木　ほのか　・・・１９
水を上手に使う工夫　和歌山県立田辺中学校　二年　中井　伶奈　・・・２０
命を支える水　近畿大学附属和歌山中学校　一年　野口　明里　・・・２１

（掲載順序は五十音順です。）

優　秀　賞

節水の大切さ

田辺市立上秋津中学校　二年

上舎（かんじゃ）　愛実（まなみ）

二〇一一年三月十一日、今もがれきの問題や原発問題がある東日本大震災がありました。その事もあり、今月は日本の原子力発電所が全て停止し、今年の夏は節水する事がとても大切だと思います。

何故節電より節水かというと、ニュース等で水を家庭で使うには浄化など色々な事をして家庭に届けているので節水する方が良いと聞いたからです。

私の家で実際にやっている節水方法は色々あります。東日本大震災の前も節水をやっていたけれど震災後の方が節水を意識してやるようになりました。

例えば、水の出しっぱなしやシャワーの出しっぱなしもやめたり、お風呂では、髪の毛をながす時や体をながす時、シャワーでながすのではなく湯船のお湯で流したりするようになりました。後は、湯船のお湯を洗たくする時に使ったりします。

私の家独自の節水方法があります。それは、冬はストーブを使います。その時ストーブの上にやかんを置いてそのやかんの中に水を入れておきます。すると水はお湯になります。私の家では節電のために、こたつの中に湯たんぽを入れます。だから、ストーブで温かくなったお湯を湯たんぽの中に入れます。しばらくするとお湯が冷めてくるので、その冷めた水を花の水やりの水や洗たくの水に使うようにしています。

夏では、アサガオ等の花やゴーヤ・トマト・レタス等の野菜をよく育てるのでお風呂の残り湯は水やりにも使います。あと、くつ等を洗っている時、水を捨てずにためておきます。この水は、汚いけれど夏は暑いので、家のまわりの水まきに使います。

私は、今まであまり節水をするということを意識せずに生活していました。冬の朝などは寒く、水をさわると冷たいのでお湯が出てくるまで水を出しっぱなしにしたり、くつや食器などの洗う物も水をずっと出しておく方が洗いやすいので、出しっぱなしに

していました。お風呂の残り湯も、様々な事に活用できるのに洗たく物がなければいつも捨てていました。

私のように、東日本大震災や台風がおこったあとに　節水をした方がいい、節水は大切な事だ」と思って節水を意識しはじめた人は少なくないと思います。

水は私たちの生活の中で必要です。そんな身近な水でも、浸水したり津波であったり、恐いということを昨年の台風や東日本大震災で知りました。震災の大津波を私達は忘れてはいけないと思います。

だから、私達は水を無駄づかいせず大切に使わなければいけないということを知りました。そういう意味で、東日本大震災は私にとってとても勉強になりました。

私は、これからも水を大切に節水を意識していきたいです。

優　秀　賞

水について考えたこと

近畿大学附属和歌山中学校　一年

高橋（たかはし）　亜里紗（ありさ）

家の窓辺に小さな盆栽の鉢がおいてあります。なぜかその鉢から、ちがう植物が芽を出して、どんどん成長していきました。とうとう つぼみを つけ、黄色い花が咲きました。ビオラという花でした。盆栽の鉢に黄色いビオラ ってとても変だけど、家族もなんとなくそのままにしていました。ある日鉢を見ると、ビオラがしおれて土の上に横たわ っていました。私が コップに水をくんでビオラの根元にかけてやると、数時間後にはもとどおりの元気なすがたに戻りました。

植物にとって私たちにとって水はとても大切。なくなるととても大変なもの。私たちはそのことを忘れているのではないかと思います。

前に断水にな ったことがありました。手を洗おうとしたら水が出ませんでした。トイレに行 っても、水を流せません。食器を洗えないので、夕ご飯を紙皿に入れて食べました。ひと つひと つなにかをするたびに、ああ水が出ないんだ った！と思いました。わずかな時間の断水でも私は不便をすごく感じたのに、大地震にあって何日も断水してしま った人々はどんなに大変だ っただろうと思います。テレビでや っていたのですが、飲み水として一人一日三リットルの水が必要だそうです。そしてその他に生活用水として五リットルの水がいるそうです。清潔を保 つためにも水は欠かせないものです。水が使えるということがどれほどありがたいことかと思います。

また水は使用する目的があるもの以外に、人の心にと っても大切なものだと思います。

私の家の近くに川が流れています。私の家は山間部にあるので、川は上流になります。

川はとてもきれいで澄んでいて、魚なども泳いでいます。小学校の時は、川探検という時間がときどきあり、川の中を歩いたり、生物を観察したり、とても楽しかった思い出です。夏になるとホタルが飛ぶので、暗くなるのを待って川へ出かけ、橋の上からホタルを見ます。川のほうからふわふわとただよってくる無数の光はとても幻想的で、私は夏が来るのが楽しみです。川の流れる音も大好きです。海の水、プールの水、田植えをした後の田んぼの水。私にとってはどれもすごく気持ちのいいものです。

でも、水は時々怖いものにもなります。大雨がふって、近くの山がくずれたことがありました。川の流れは激しくて、にごっていて、木の枝をたくさん流していきました。一番今までで怖いと思ったのが、去年の三月に起きた東日本大震災による大津波の映像をテレビで見たときです。後ろからせまってくる津波から走って逃げている人や、波にのまれて流されていく自動車や家屋の様子。たくさんの人が流され命をおとしました。人の無力さを感じて私は衝撃を受けました。

水と関わっていく中で私にはなにが出来るんだろうと考えました。水を大切に使う、水の出しっぱなしをやめよう。水をきれいにする、ゴミを減らしていく。水に対して過信しないこと。出来ることは小さいけれどやってみようと思います。

優　秀　賞

水と共に生きる

和歌山県立田辺中学校　三年

中岡（なかおか）　優依（ゆうい）

私たち人間が、生きていく上で絶対にかかせないもの　水。」人間は水がないと生きていけない。風呂、洗濯、洗顔、トイレ…さまざまなところで私たちは水を使っている。その必要な水は、水道をひねれば出てくる。それが私たち日本人にとってはあたり前の事。しかし世界には、水道がなく、朝はやくに水をくみに行かないといけない国もあるのだ。

前にテレビで、小学生の女の子が、朝はやくに何時間もかけて水をくみに行っているのを見た。その貴重な水もにごっていてきれいではない。しかし、その水しかない人たちはその水を風呂、洗濯、洗顔…などに使い、飲料水ともしているのだ。

私はこのテレビを見た時、何とも言えない気持ちになった。私は水道のじゃぐちをひねればきれいな水が出るのがあたり前だし、にごった水を飲料水にすることは考えられないと思っていたからだ。私たちは、顔を洗ったり歯をみがく時、つい、水を出しっぱなしにしてしまう事がある。でも「もったいない」という気持ちはほとんどもたない。なんの気持ちももたずに出しっぱなしにしてしまっているのだ。だから、「つい」となってしまうのだろう。でも、その考え方はよくないと思う。日本人や水道のじゃぐちをひねればきれいな水の出る国は、水を空気と同じ価値観で考えているのではないだろうか。どこでもあたりまえに存在するものと思っているのではないだろうか。私はその考え方は考えなおさなければならないと思う。水を遠くまでくみに行っている国では、一回の水くみで得られる水の量は限られている。だから、水を大切に使っているのだろう。日本ももっと「もったいない」という気持ちをもつ事が必要なのではないのだろうか。

また、水くみをしているのは子どもや女性が多いらしい。子どもの場合は、学校に行く前に水くみに行き、そして学校から帰ってきた後も水くみに行くのだ。何時間もかけて水くみに行くため、

勉強する時間が少なくなってしまうのではないか、と思う。やりたい事を思う存分にできないのである。

世界には、一人一日二〇リットルの安全な飲料水を一キロメートル以内で確保できない人が九億人弱もいるらしい。また、きれいな水を飲んでいないので、毎年一八〇万人の子どもたちが、不衛生な水等を原因とする病で命をおとしているらしい。「水」は人々の命を、直接的にも間接的にも支えているもっとも重要な「資源」である。それをあたり前に、いつでもどこでも使うことができる私たちはとても幸せだと思う。だからこそ大切に使わなければいけないと思うし、「もったいない」という気持ちをもたなければいけないと思う。

同じ地球に住んでいて、人間に絶対必要な「水」。その水を簡単に得ることができる国とそうでない国。違いはたくさんあるけれど、やはり同じ地球に住んでいるのだから、水を簡単に得る事ができない国の事を知っていくことが必要だと思う。だから自分たちもあたり前にある水だけど大切にしなければいけない。そして「水」についても知っていくべきだ。

私がこれからしようと思うこと。まずは、「つい」というのをやめて「もったいない」という気持ちをもつこと。それから、水を無駄使いせずに大切にすること。これだけで水への思いがかわるのではないだろうか。私たちに絶対必要なものだから、大切にする。今までも、そしてこれからも、私は水と共に生きるのだから…。

入選

人と水

近畿大学附属和歌山中学校　二年　庵野（あんの）　真代（まよ）

私は、人が生きていく中で必要不可欠なものは水であると思う。日々の暮らしの中で水は、人々にいろいろな力を与えていると思う。普段から気にもとめず、あたり前のように水を使っていたと今更ながら感じた。この機会に人が生きていくことと水の関連を考えていこうと思う。

それらを考えていく上で、三つのことを提示する。一つは食生活、二つ目は生活用水、三つ目は自然である。

まず、食生活についてである。人間は、野菜や魚、肉を調理して食べる。その食材を遡れば必ず必要なのがやはり水である。植物を育てるとなれば水は毎日やらないと枯れてしまう。魚も水の中で生活し、動物は水を飲む。私達が毎日食べているものも時を遡ると水が生きることに関連していると言ってもいいだろう。このことから、我々人間を含めた動植物にとって水とは、切っても切れない資源なのである。

では次の項目について考えようと思う。人の生活で絶対にでる、生活用水についてである。例を挙げると、顔を洗う水、歯みがきの時の水、風呂の水……など、数えるときりがない。

ここで話は少し変わるが、蛇口の水について思うことがある。

私は今まで、蛇口をひねるときれいな水がでてきて、あたり前のように生活用水として使ってきた。しかし、テレビで海外の国々には、日本のように蛇口が無い国や、蛇口がある場合でも水が出ない国があると知った。こんな現状を知り、自分は恵まれた生活をしているという実感がわいた。水道水とはいえ、感謝しないといけないと思う。

ここで、本題の生活用水についてだ。生活用水は、人が快適にすごすためにあるのではないかと思う。つまり、あたり前のように生活するための手助けの役割ではないのか。

そして三つの提示の最後、自然である。

自然にも水がある。雨、川、海などが例に挙げられる。今までの二つの提示は、良い意味ばかりだったが、今回は自然災害についてだ。まだ記憶に新しいが、東日本大震災の時の大津波がたくさんの家や車、そしてなによりも尊い命を一瞬にして奪いさった。身のまわりにある、生きる為の水が、人の命をおびやかす危険な存在になる。日本以外の各国でも、洪水などの災害がおこっている。以上より、水はときに凶器となり人間の命をおびやかす物体になりえる。

この三つの提示より、水は人の生命を支え、生きるためにかかせないものである。しかしながら、自然災害という大きな力を持つことで、人の命をあっけなく奪いさるものとなる。

今回は、水について初めて考えることが出来たと思う。普段の水への感謝と、自然災害への備えを考えさせられたと思う。

人と水というのは、これから先もずっと続いていく縁だと思う。人にとって水はやっぱり大切である。

入選

キレイな水を後世へ

紀美野町立美里中学校　三年　宇城（うしろ）　美月（みづき）

ある日の夜、家族でＴＶを見ていると、「水質汚染で川が汚れている」という ニュースが流れました。そのニュースを見て、

昔は、すごいキレイやったのになぁ。」

と、おばあちゃんが言いました。不思議に思った私は、

え。六十年前までは、まだキレイやったん。」

と聞きました。私は、六十年位前は結構最近の事だから、川が汚れ始めたのはいつ頃からなのかと思い、調べてみる事にしました。私は、三十年位前からかなと思っていました。

でも、調べた結果は私にとって、予想外のものでした。水質汚染の始まりは、明治時代の足尾銅山の鉱毒水からでした。私は、調べた結果について、「矛盾しているんだけど、どうして。」

と、おばあちゃんに聞きました。すると、おばあちゃんは、

うーん。汚染水はその頃から、あったけど、特にひどくなったのは、最近の事なんだよ。」

と言っていました。

そして、私には、もう一つ驚いた事があります。それは、水質汚染の約七十パーセントが家庭から出る排水だということです。工場排水は、法律によって規制がかけられ、だんだんましになっていますが、それとは逆に小さすぎて規制のかけられない生活排水が大きな割合を占めるようになったのです。

私の家で、それらを防ぐためにやっている事は、「お風呂の残り湯は洗濯水として再利用する」と「汚いお皿はティッシュで拭く」の二つだけです。なので、近所の人や友達に聞いてみました。すると、「米の研ぎ汁を花の水やりに使う」や、「合成洗剤など、川や海を汚すようなものは使わない」など、たくさんの意見が出てきました。これらを、日本じゅうの皆で取り組めば、日本や世界の水をもっと、より良い水に出来ると思います。

私は、この作文を書いている時に色々な水質汚染の資料を見て、私達の孫やひ孫の世代にも、安心して飲む事ができるきれいな水」を残したいなと思いました。そのために、私ができる小さな事を続けて、私がおばあちゃんになっても、家族で川や海に行ける日本のキレイな水を守り続けたいと思います。

入選

水問題について

和歌山県立田辺中学校　三年　片井（かたい）　和歌子（わかこ）

世界人口の急増にともなって水不足が深刻化すること、そして、水資源獲得とそれをめぐる争いが、世界各地で頻発することが予想されている。このことから、二十一世紀は「水の世紀」であるといわれています。しかし、それらの危機に直面していないわたしたちは、水不足や水の無駄使いなどについて考える機会があまりないように思います。そこで、「水の世紀」といわれるほど国際的テーマとなった水問題の現状や、水問題においてわたしたちにできることは何かについて考えてみることにしました。

現在、世界人口の約二割に相当する十二億人もの人々が、安全な飲み水を確保できない状態にあり、年間五〇〇～一〇〇〇万人が水不足で亡くなられています。さらに、水不足だけでなく、汚い水が原因の病気で、八秒に一人の割合で幼い子どもが命を落としているのです。また、安全な飲み水を確保できていない十二億人もの人々のうち、アジアが占める割合は六四％にも成るそうです。

そのことを知った時、わたしはおかしいなと思いました。日本は、アジア地域に属しながら、水不足に困るどころか水を無駄使いしているからです。豊かな自然に恵まれて、有数の河川と湖から安全性の高い水を得られているということに、感謝しながら大切に使っていくのが当たり前です。しかし、日本のどの地域でも水道の蛇口をひねれば、当然のようにきれいな水が出るということに、わたしたちは慣れてしまっているせいで、水に対するありがたみがうすれてきているような気がして、不安な気持ちになりました。

アジアやアフリカの国の人々は、飲料水を確保するために毎朝水をくみに出かける、と言う話をよく耳にします。わたしよりも幼い子どもたちが、舗装されていない道を何時間もかけて歩いていく様子を、何度かテレビで見たことがあります。水がとても貴重であるその地域の人たちは、雨水や水たまりの水さえも、ためて使っているのです。

わたしたちが水道の蛇口を十秒間ひねるだけで得られる分の水を、その地域の人たちは何時間もかけて運ばないと得られない。私たちは、たった一回のトイレの利用で、地球上の誰かの一日分以上のきれいな水を流してしまっている…。

水不足に関するそんな話を聞いて、私はこのままではいけないと思い、自分にできる事を考えてみました。うがいや顔を洗うとき、水を出しっぱなしにしないことや、お風呂の水を洗濯に使うこと、食器を洗うとき、新聞で汚れを少しふき取ることで下水の汚染をへらすことなど、身近なところから考えていけば、わたしにできることはまだまだたくさんあります。しかし、その中でも最もわたしがしていきたいことは、地球上には今も水不足で困っている人がたくさんいるということを忘れないこと、そして、今自分が水に困ることなく生活できていることに感謝しながら、水を大切にしていくことです。水不足で困っている人のことを絶対に人ごとにしないことが、一番大切なことだとわたしは思っています。一人ひとりが水問題に真剣に取りくむことで、世界全体が一つとなって水を守っていく、そんな意味での「水の世紀」に二十一世紀がなればいいなと思います。

入選

表と裏

近畿大学附属和歌山中学校　二年　栗本（くりもと）　実季（みつき）

私の祖父母家族は日高川町にいる。緑の山と大きな川、そして私の大好きな祖父母が作ってくれる野菜やお米が育つ田畑がある。そこは私にとって穏やかかつ活気あふれる場所だった。

しかし、昨年九月の初め頃洪水がそこをおそった。そこから二日程たった日におばから母へメールが届いた。その時やっと祖父母家族の状況を知ることができた。祖父母家族の家は高台にあるのでなんとか無事であった。直接の被害はなかったが、停電と断水によりろうそく生活で、お風呂も入れない状態だと言う。停電は二、三日だったが、断水は長く続いた。しばらくして農水は出たので汚れた水だったがなんとかお風呂には入れたらしい。穏やかだったはずの土地が一瞬にして牙をむいた瞬間だった。この体験で祖父母はこう語る。長く生きてきたけれどいままでこんな体験をするのは初めてで、恐ろしかった、と。私はそれを聞いてうなずくだけだった。ただ心配することしかできない私は本当にちっぽけな存在だと思うだけだった。

九月二十五日頃、私たちは日高川町を訪れた。そこで見たあの光景は、今でも忘れることなく私の脳裏に焼きついている。そしてこれからも忘れることはないだろう。というよりわすれてはならないのだ。木々は全て倒れ、水はにごり、きちんと整列していたはずの大きな石は乱れて、昔従姉妹と遊んでいたはずの優しくて大きな川は、もうめちゃくちゃだった。言葉にできない。言葉にしてはいけないような気さえした。亡くなった人や、半年以上たつ今でも行方不明の人はいる。そこには受け入れたくない残酷な現実が堂々と私たちの目の前に立っていた。けれど私たちはこの現実を受け入れなければならない。そして、ただ受け入れるだけではなく、未来に繋げる第一歩を歩まなければならない。そのためには、体験したり実際に見た人たちがたくさんの人にそれを伝えて、知恵をしぼり、いつ何が起きても対応できるように準備しておく必要があると私は思う。

こんな風に身近でおきた災害について熱く述べても、やはり自分は体験したことがないので、どこか他人事のようになってしまう。私たちは、怖かっただろうな、大変そうだなと想像することしかできない。災害についてのニュースを見ても、テレビの向こうにいる人たちは何を思い、何を考え、そして何を感じているのか。それはその人本人でなければはっきりとは分からない。しかし、あの光景から想像を生み、少ない情報の中で何かを感じとり、何をしなければならないのかを一人一人が、まず考えなければならない。そして、その考えを実行にうつさなくては意味がない。先程、言葉にしてはいけないような気さえした、と述べたが、ある意味では言葉にしなければならないのかもしれない。私たちがしていることは、果たして正しいのか、それは誰にも分からない。だが、自分の行っている行動を検証しながら走り続けることが大切であると私は思う。目の前の壁を無視して通り抜けるのではなく、正面から立ち向かい、そして少しずつでもその壁を壊していくべきである。小さな人間でも、人々が手をつなげば出来るはずである。

水は私たち人間が生活する上でも、生存していく上でも、最も重要である。しかし、笑顔だったはずの水がいつ牙をむいて人間をおそうか分からない。水に助けられ、水におそわれて、それでも水に感謝する。これは本当に不思議である。いくら考えても追求しても答えは出ない。しかしこれを受け入れて、利用していくことが私たち人間の役目である。

人と水、この関係は一生終わることはない。

入選

水が出る喜び

紀美野町立美里中学校　三年　紺谷（こんたに）　文香（あやか）

私達が生活していくうえで、水はかかせません。洗たく、トイレ、お風呂、料理、様々な事に必要とされています。

私は以前、ある番組を見ました。それは、日本人の井戸掘り職人清水さんとかまど職人宮奥さんがカンボジアに行き、井戸とかまどを作るという番組でした。カンボジアでは、遠くにある川の水を、バケツを持って歩いてくみに行きます。この水くみを、一日に何度もしなければいけません。近くに井戸を作る事で仕事量が減りすごく楽になります。

井戸掘りは、清水さんとマジンという男の人を中心に進んでいきました。途中、うまく掘れなかったり、仲間割れをしてしまったりと困難な事はありましたが、一ヶ月ほどかけてやっと水が出始めました。

その日を楽しみに待っていた子供達や住民の人たちは蛇口から出てくる透明のきれいな水を見て、すごく笑顔で喜びはしゃいでいました。日本に住んでいる私達にとっては普通の事なのかもしれませんが、カンボジアの人々にとってはとっても幸せな事なのです。私は、水がなくて困っている地域の人達に失礼のないような水の使い方をしていこうと改めて感じました。

また、病院では器具を消毒するのに今までは洗剤を使って衛生面的には良くない消毒の仕方をしていましたが、清水さんと住民の人達とで協力して出した水と、宮奥さんが作ったかまどで熱湯消毒ができるようになりました。

この2人のおかげで、たくさんの人が助けられ井戸堀りの技術やかまどの作り方をカンボジアの人達に教えた事によって、カンボジアの文化までもを変えてしまいました。

今、水の豊かな日本でも水不足が問題になっています。その原因は、水の循環に異変が起こっているからなのです。そこには、生活の中で私達がしている水のむだ使いも大きく関係しています。

その循環をこわさないためにも、日頃の「心がけ」が大事だと思います。例えば、洗面所で顔を洗う時は水を出しっぱなしにしない事です。これを、一人一人が心がけていくと大量の水をむだ使いせずにすみます。

生活していくうえで「水」は、すごく必要で大切なものです。その水がなくなってしまったら私達が生きていくのは難しいと思います。そのようにならないためにも、カンボジアの人達のように、水が出ている事の喜びを理解しながら使っていくべきだと思います。

入選

今、できること

近畿大学附属和歌山中学校　二年　雑賀（さいか）　智菜実（ちなみ）

水という言葉を耳にすると、何を思い浮かべるだろうか。

海や川、雨、飲み水など、人によって思い浮かべる姿は違う。多くの答えがあるということは、私達の生活はそれだけ深く水と関わっていることになる。炊事、洗濯、風呂、トイレ、歯磨き、飲み水など、日常生活には大量の水が必要とされている。毎日は水で始まり水で終わると言ってもいいくらいかもしれない。

私たちが使っている水はきれいなものばかりだが、きれいではない水の姿を目にすることもある。例えば川だ。私の住む地域に流れる川は黒っぽい緑色をしている。ゴミも捨てられてある。今はこんな姿になってしまったが、何十年も前はまだきれいだったそうだ。なぜこんなにも汚れてしまったのか。その原因は人間にある。人間がゴミを捨てたり、生活排水や工場排水を川に流している。そのために生物がいなくなったり、そこの水が使えなくなってしまったりもする。つまり、きれいではない水の姿とは人間が汚した水の姿である。

普段から私たちの生活は水に支えられているのに、こんなにも水を大切にしていないのが現状である。

日本は水に恵まれた国であるから、水をそんなに意識せずに使ってしまっているのだと思うが、世界には水不足でくるしんでいる国がたくさんある。生活に必要な分の水も確保できず、死んでしまう人々だっている。

水は人間にも自然にも、すべての生物にとって生きていくために必要不可欠なものである。だからこそ、水を大切にし水と共に生きていくことは、水のある未来を守っていくことにつながるだろう。そのためには、一人一人がしっかりと意識を持ち、行動しなくてはならない。水を出しっぱなしにしない、汚れた水を川に流さないように洗剤の量を考える、川や海にゴミを捨てない、などが考えられる。どれもあたり前のことのようだが、私も含めて大半の人が実行できていないのが事実である。小さなことからでいいから、私たちが動くことが大切だ。

人間は水を汚すことではなく、水を守っていくことをしなければならない。汚してしまうのはとても簡単であるが、取り戻すことはきっと、もっと難しいだろう。このままだと日本も、水不足や水質汚染で危機に直面するときがくるかもしれない。そうならないためにも、やはり今一度、水の大切さを学ぶべきだと思う。

水は限りある貴重な資源だ。水は限りない資源ではない。これからの未来が水と共にあるように、世界中が水で苦しむことのないように、今の時代を生きる私たちが水を大切にし、水の大切さを伝えていくことが重要なのではないだろうか。

さあ、美しい水を未来に残そう。私たちの手で。

入選

水を大切にする

和歌山県立田辺中学校　三年　出﨑（でざき）　千晶（ちあき）

私達人間の生活と水は、深く関わっています。体を維持する飲み水をはじめ、炊事、洗濯、風呂、トイレなど、私達はあらゆる場面で大量の水を使っています。また水は、人間だけでなく他の動物や植物にとっても必需品となります。しかし、水は無限にあるわけではありません。

地球の表面の約七一パーセントは水です。そのうち九七パーセントが海水であり、淡水は残りの三パーセントでしかありません。しかし、そのほとんどが北極や南極の氷であり、実際に人間が利用できる水は、地球上の水全体の約〇・〇一パーセントにしかすぎません。

これを聞くだけでも、水が大切な資源であることがわかります。しかし、私達人間はそのような大切な資源を、いつも無駄に使っているのです。例えば、朝、歯磨きをする時、三〇秒間水を出しっぱなしにすると、約六リットルの水を無駄にしています。他にも、トイレでは毎回約一二から二〇リットルの水を使います。東京都水道局の調べによると、家庭で使う一人一日の水量は平均にして約二四〇リットルだそうです。しかし、アフリカでは一人一日わずか六三リットルしか使っていないそうです。

蛇口をひねれば水は簡単に手に入ります。しかし、水道のない国では、毎日遠くの井戸まで水をくみに行かなければなりません。その労働のため、学校へ行くことが出来ない子供たちが多くいます。また、水不足や不衛生な水によって、生命をおびやかされる人々もたくさんいます。私達はそのような辛酸もなく、非常に恵まれた生活の中で、水の大切さを忘れているのです。水を大切にするには、私達一人一人が考え、実行する必要があるのではないでしょうか。

では、水を大切にするためには、私達はどのようなことをすればよいのでしょうか。水を無駄にしないことはもちろん、水を汚さないことが必要なのではないでしょうか。

まず、水を無駄にしないためには、やはり水を出しっぱなしにしないことだと思います。また、お風呂の残り湯を洗濯に使ったり、雨水をためて利用したりする方法もあります。

次に、水を汚さないためには、工場などでの汚水のろ過を強化する必要があると思います。家庭では、洗剤を自然に害のない物に変えたりするなどの工夫ができます。

また、私達が食べている食物などは、作られる過程で必ず水が使われています。なので、それらを食べ残したりするということは、水を捨てるということと同じなのではないでしょうか。

昔は飲み水として雨水を飲みました。しかし今では、自販機で買ったミネラルウォーターなどしか飲みません。雨水では衛生上悪いからです。人間は生活を向上させ、文明を発展させるために、自然を破壊してきました。自然を破壊できるのも、大切にできるのも、食物連鎖の頂点にある人間だけなのです。一人一人が水を大切にするということは、自然を大切にすることもつながってくるのではないでしょうか。

入選

水の作文

田辺市立上秋津中学校　三年　中川（なかがわ）　莉渚（りな）

私は、水はすごいと思います。単純な言葉でしか評価できないけど、いろんな言葉全てを含んで、それはすごくてすてきなものだと私は思います。

私がそう思う第一の理由は、水はとても神秘的なものだと思うからです。単純に透明だから、というのもあると思います。でも、水自身にそう思わせる何かがあると私は思います。地球に水があるという事は神秘です。たしかに、科学で表すことができるでしょう。ただ、水素と酸素がくっついてできた、それだけの事です。では、その科学をまだ学んでいない子供はどう思っているのでしょう。科学がない、証明されていなかった時代の人々は、一体どう思っていたのでしょう。それはあってあたりまえのもので、でもよく考えるとすごいんじゃないかな。そう思ったはずです。神秘、という言葉がわからなければ不思議、それがわからなければすごい。言葉で表せなくても、胸の中で言いようのない何かがせわしく動いてる。それは水がとてもすてきなものだと思っているからだと私は思っています。

第二の理由は、人が生きていくために必要なものだからです。人は水だけで一週間から十日ほどはもつと言われています。それはすごいことです。人だけではありません。植物や人以外の動物、全ての命を水は育んでいるのです。けして水だけでは生きられない。でも、けして水なしでも生きていけない。見返りを求めず、ただそこにあってくれている。それはどれほどありがたい事でしょうか。水は皆に平等です。平等でないとすれば、それは人の心です。たしかに砂漠地帯は平等ではないでしょう。でも、それをわかっていて手を差し出さないのは人です。差し出している人はいます。でも、全ての人ではない。たしかに名前も知らない人に手を差し出すのは中々難しいでしょう。でも水は、「つかきっと自分を通して世界はつながってくれる。」そう思って全ての生き物を育んでいると私は考えています。

水はすばらしい。命を育んでいます。でもそれと同時に、命をうばってしまうこともあります。とてもわかりやすい例は、やはり昨年の東日本大震災でしょう。水の力は偉大です。その偉大すぎる力が多くの人間を襲い、飲み込んでしまう。そして一度飲み込まれてしまったらもう戻っては来ません。津波は多くの人をさらってしまう。波だけならどれほど良かったでしょう。泥は人を隠してしまいます。探しても探してもそれを嘲笑うかのようにその人をけして返してくれません。波の勢いに負けて亡くなってしまう人もいるでしょうが、泥がなければもっと生存者がいるのではないかと私は思います。

水は人を、全ての命を、生かしも殺しもします。それはきっと水の本当の姿なのだと私は思います。崇められながらも恐れられているという、まるで神様のような存在。やっぱりそれはすごくすてきで、神秘的な事なのだと私は思います。

入選

水を守ることによって

海南市立東海南中学校　二年　名手（なて）　悠記（ゆうき）

水は、ぼくたち人間が生きていく上でかかせないものの一つです。しかし、水はときには危険なものとなり、様々なものを破壊し、人間を殺すことだってあります。

今、ぼくたちは水を飲んだり、洗いものに使ったりと色々なことに活用し、必ず身近にあるものだと思っています。しかし、今の時代水の量が非常に少ないところもあり、そこに住む人々は苦しい生活を強いられていると思います。ぼくは、このような水の少ないところに住んでいる人たちのことを考えて大切な水を分け合うことが大事だと思います。そのためには、地球の環境を守り、少しでも水を減らさないようにすることが大事だと思います。けれども、これから時が経つにつれ、どんどん水の量は少なくなっていくと思います。そうなると、水を人間だけで取り合い、この地球に住んでいる動物たちに水を分けてやらなくなり、多くの動物が命を落とすのではないかと思います。

僕は、こうなることを防ぐために、今のうちから、水を守るための運動をしていくことが良いと思っています。

しかし、水を守ることで百パーセント幸せになれるということではないとぼくは思います。

ぼくの家の前の道は、去年の台風十二号で川があふれて水につかりました。ぼくは、その時、初めて水の怖さを知りました。次の日、前の道はどろだらけになっていて、家の前にあった車は一台こわれていました。ぼくが、その後川を見に行ってみると川の上のほうにあったガードレールのようなものが、波のようになってたおれていて、周辺の木の多くが折れていました。

ぼくは、このような災害を防げないものかと思いました。

しかし、自然災害はいつどこで起こるか分からないため、完全に防ぐことはできないのです。

それでも、ぼくは自然災害から少しでも身を守る方法が二つだけあると思っています。一つは、小学校のときにやったようなひなん訓練をして、もしも自然災害が起こった時にはすばやく逃げられるようにすることです。

もう一つは、自然災害が起こったときに必ず必要なものをあらかじめ用意しておいてより早く逃げられるようにすることです。ぼくは、このように準備をしておくことによって災害時に落ち着いて行動することができると思います。

そして、このようなことを考えておくことによってもう一度水の大切さを知り、これからの生活でも水を前よりも大事に使うことができるのではないかと思います。また、水を大切にするのと同じように、人との関係も大切にできるようになり、この地球に共に住んでいる動物たちのことも考えてこれから生活できると思います。

ぼくは、こうして水を大切にすることによって人・動物との関係も大切にできるということを改めて知ったのと同時に、これからも水を大切にすることによって環境もきれいになっていくということを改めて知れたと思います。

入選

水

和歌山県立田辺中学校　三年　輪玉（わだま）　衣里（えり）

日本という海に浮かんだ島に住む私たち。そんな私たちの周りには、いつもたくさんの水があります。そのことを当たり前に感じている人もいるかもしれませんが、本当はすごく恵まれていることなのです。

今、世界中でどれだけの人が水を欲しがっているでしょう。私のように、それを知らない人はたくさんいると思います。それもそのはず、私たちは「水不足」などという言葉とはかけ離れた生活を送っているのですから。しかし、みんながみんなそういう訳ではなく、世界を見てみると、自分の考えの甘さに気づかされます。

二〇一一年三月十一日に起きた東日本大震災。それは日本に大きな被害をもたらしました。また、その際に起こった原子力発電所の爆発による放射線量の増加においては、水にも影響がでました。放射線の影響を心配して、乳幼児のミルクをつくる際に必要な水をスーパーに買いに行ったり、母乳で子育てをしている母親は自分の飲む水にも気をつけたりする人が続出しました。実際は基準値である百ベクレル毎キログラムを超えても身体に影響を及ぼすことはないと言われていますが、やはり心配になるのは当然のことです。今まで当たり前のように飲んでいた水が信用できなくなってしまったのですから。

私は自然豊かな田舎町で暮らしているため、水は谷からポンプでくみ上げたものを使用しています。近所の友達の中には、川から水をひいている人もいれば、家の庭に井戸がある人だっています。それがいいことかどうかはわかりませんが、私たちは昔から地域でその水を分け合って使用しています。ポンプや水道管の一部が壊れていたらみんなで直します。そして、晴れの日が続いてタンクの水の量が少なくなってきたら、みんなそれぞれ他の人のことも考えて使います。また、冬には水道管が凍ってしまって水が出ないことなんかしょっちゅうです。このように、水には時々困らされますが、この十四年間、究極に困らされたことは一度もありません。

では、もし身の回りから水が消えてしまったら。喉が渇いても飲む水がありません。数日生き続けるだけでも精一杯なはずです。これは極端な話だったかもしれませんが、私達の生活には、水が必要不可欠なのです。私たちが今当たり前のように使っている水は、本当はとても貴重なものなのです。

世界には、家から何キロメートルも離れたところまで、生活に必要な水をくみに行っている人が何人もいます。小さな子供でも、何キログラムもする水をバケツに入れて一生懸命運んでいます。しかし、その水は決してきれいではなく、何人もの子供の命が下痢による脱水症状やさまざまな病気によって奪われています。私はそのことを、小学校の児童会でユニセフ募金活動をした時に知りました。その時、私たちはなんて楽な生活を送っているんだろう。蛇口をひねればすぐに水が出て、冬になれば暖かい水だって出る。私たちにとって当たり前になりつつある事が、どれだけ幸せなことだったんだろう。と改めて考えさせられました。

未来の日本から水がなくなる日はないかもしれません。でも、それは絶対ではない訳で、世界の人々を考えてみると、水というものの大切さに気づかされます。だから、今この日本に生きていることに感謝して、水に困らない世界が生まれるような、明るい未来を切り開いていけたらいいなと私は思います。

佳作

水が減っていく問題

紀美野町立美里中学校　二年　大野（おおの）　まり

私は、人が生きていく上で水は大切だと思います。だから、今、世界の水、日本の水に何が起こっているのかを調べてみました。

どうして水が減っているんだろう？国連によれば、これからは世界の人口の増加と、人々の生活の発展などによって、水の使用は増え続けるとされています。水の使用量が増え続ければ、限りある地球の水資源は減っていくしかありません。最近では、地球温暖化が、地球の水資源に大きな影響をあたえるとされています。気温が上がると、地域によっては降水量が減ってしまったり、降水量自体は同じでも強い雨が増えて水が一気に流れてしまったりするので、水不足におちいるかもしれないといわれています。また、今、地球ではどんどん砂ばくが広がる砂ばく化が問題になっています。水がほとんどない地域が増え、水が減っていくということです。国連環境計画の調査によると、地球の全ての陸地面積の約四分の一、地球の全ての人の約六分の一が砂ばく化のえいきょうを受けているそうです。砂ばく化が起こる原因の一つは雨が降らなくなるなどの気候の変化によるものです。しかし、土地に対して多すぎる家畜の放牧や、土地を休ませることなく作物をつくり続けることなど、人々の活動のほうが、実はもっと直接的な砂ばく化の原因になっています。

どうすれば使う水の量が変わるのかを考えてみました。トイレでは、大小のレバーを使い分ける。大のレバーをつかうと、小のレバーの時より水が多く流れます。めんどうでも、こまめにレバーを使い分ける事で、節水ができます。お風呂では、水を入れすぎない。入った時に浴そうからあふれ出てしまったらもったいないです。後、残り湯を捨てずに使う。普通の大きさの浴そうに入る水の量は二百リットルです。これを捨ててしまわずに、洗たくの最初のあらい水や、くつを洗う水、植物にやる水、庭にまく水などに使いましょう。洗面台では、水を流しっぱなしにしない。歯みがきの時に水を出しっぱなしにすると、一分間で約十二リットル流れてしまいます。必要な量だけコップにくんで使いましょう。

きれいな水にもどすには、大変な量の水が必要なのです。実際には下水処理場や浄化槽によって、よごれた水はうすめる以外の方法である程度きれいにすることができます。しかし、その力にも限界があるので、できるだけ食べ物によるよごれを減らすことが必要です。

このように、水は大切なので、水をよごしたり無駄使いをしたりしないようにしましょう。

佳作

水の力

和歌山県立田辺中学校　三年　北（きた）　彩乃（あやの）

水は、とても不思議な存在です。井戸や水道から汲まれる飲み水、湧き水、ミネラルウォーター、工業用水、農業用水、川や湖の淡水、そして生命の生まれた元となる海水、水力発電として電気となる水…目には同じに見える水にも様々な役割があり、私達の生活にはなくてはならないものです。

電気の始まりは、明治十五年、銀座に灯ったアーク灯、当時は電池による発電でした。発電の始まりは、江戸時代の薩摩藩主島津斉淋の水力発電。本格的な水力発電は、一八八八年に紡績機を動かすためのアーク灯をつけたのが最初です。いっぽう火力発電も負けず劣らず、水力発電よりも一年早い一八八七年に石炭を燃料とした火力発電所が作られています。

一九〇七年、山梨県の水力発電所で、約六〇キロ離れた東京早稲田の変電所まで送電できるようになりました。すると、この技術革新が追い風となって、大都市に電気を送るために、地方に大規模水力発電所が続々と建造され始めました。戦後の復興期にあたる一九一五年には、水力発電が日本の電力供給の七〇～八〇％を担うまでになっていました。その後高度経済成長期を迎え、ますます日本の電力消費量が高まりましたが、もはや大規模水力発電所は建設し尽くされてしまっていました。そこで、発電の主力は水力から火力へと転換がはかられました。火力発電は建設地の制約が少ない上、発電効率が大変高いからです。

ところが一九五〇年代半ばになると、第三の波がやってきます。原子力発電所。火力発電のように化石燃料を必要とせず、二酸化炭素も排出せず、産み出す電力も膨大で安定的ということで、一気にもてはやされるようになりました。しかし近年、原発の危険性が取り沙汰され、自然エネルギーに転換すべきだと声高に叫ばれています。そんな風潮の中、原点回帰とも言える小規模な水力発電、「小水力発電」がにわかに注目されています。

小水力発電といっても原理は同じ。水の流れを動力にして電気に変換します。実は、戦前までの日本は小水力発電が主流。水力発電といえばダム式の大規模なイメージがありますが、昔は河川や農業用水を使って小さな発電所を動かしていたのです。

昨年の東日本大震災の影響による相次ぐ原発停止に、運転を再開するか、しないかで意見が分かれる今、この問題を地元側と政府側だけの問題ではなく、日本全国で解決するべきだと思います。小水力発電はダム式ではなく、流れ込み式または水路式なので、河川などの流れそのものをエネルギーに変換できます。大きな発電所がなくとも、電気の地産地消をすればいいのではないでしょうか。最大出力一〇〇キロワットの小水力発電所一つで、約一〇〇軒分の電気をまかなう事が出来るそうです。一般河川、上水道施設、下水道施設ビルの循環水、工業用水……水田が減った今、別に農業用水がなくとも小電力発電が出来る場所は数多くあるのです。日本は降水量が多く、河川の数も多い国です。河川は、小さいものまで含めると三万にも上るそうです。

近くを流れる水には膨大なエネルギーが眠っています。今、目を覚ます時ではないのでしょうか。

佳作

水の惑星

田辺市立上秋津中学校　二年　鈴木（すずき）　ほのか

昔、一人の宇宙飛行士が宇宙から地球を見て、

地球は青かった。」

と言った。

私たちには、水はなくてはならないものだ。私たちが日々暮らしていて、水を使うことはとても多い。たとえば、洗たく、お皿洗い、お風呂、トイレなどなどもっと考えれば数えきれないほどだ。水があるからこそ私たちは生きてゆける。なにしろ私たち人間の体はほぼ水でできているのだ。そんなまるで友達のような水なのに水をよごしたり、無駄に使ったりといろいろな問題がおきている。川とかの水がきたなくなって魚が住めなくなったり海に浮いているビニール袋をエサだとまちがえて海ガメが食べてしまい死んでしまったりと、私達人間の生活が原因で、ほかの生き物が苦しんでいる。それは、とてもゆるされないことだ。だから水を大切に使わないといけないと思う。たとえば、水を出しっぱなしにしない、お風呂ののこり湯は洗たくに使う。米のとぎ汁は、花だんやプランターで草花を育てていれば草花にあげるなど、いろんな方法がある。私の家でやっているのは、この中で二つだけなのでいろいろやっていきたいと思う。

しかし、じゃ口をひねって水が出るときには想像もつかないようなことがおこることがある、津波だ。去年の三月十一日におこった東北の地震。地震のあと大きな津波が東北をおそった。高さ十メートル以上の津波が町を家を木をのみこんでいったのだ。そして大きな被害をもたらした。ニュースで見ていてもどれほどすごいことだったかはとてもよく分かった。津波というとてもおそろしい水の災害があっても、やはり人間がくらしていくには水が必要だ。ときには、おそろしいものに姿を変える水だが、人間が生きていくためにはこれからもずっと水と関わってくらしていかなくてはならないのだ。だからこそ、水はこれから何百年、何千年たってもきたなくならないように私たち人間が工夫していかなくてはならない。一人の人間が水を工夫して使ってもそれほど効果はない。たくさんの人たちが少しでも変わっていったなら、効果はいつかあらわれると思う。実際に、ゴミひろい活動などがおこなわれているそうだ。こんな活動をもっともっと広げていったらすごく水がきれいになるんじゃないかなと思う。

昔、一人の宇宙飛行士が言った。

地球は青かった。」

この言葉が、

地球は、灰色と青がまじった色だ。」

に変わらないように、私たちががんばっていきたい。そして一億年たって、どこかの星の宇宙人が地球を通って

あの星はきれい。」

と言ってもらえるようにしたいと思っている。水をいつまでもきれいに、ということは水の惑星、地球に生まれた私たちの使命なのではないだろうか。

佳作

水を上手に使う工夫

和歌山県立田辺中学校　二年　中井（なかい）　伶奈（れな）

私達の生活の中で、「水」はとっても身近で、かかせない存在です。また、「水」は大切な資源であり、人間、動物、植物など、地球上の全ての生き物の命を繋いでいます。

私達日本人は、日常の中で、当然のことのようにきれいな水を沢山使っています。料理・洗濯・風呂・トイレなど、水道をひねれば何の苦労をすることもなく清潔で安全な水を使えるのです。

私達は水を自由に使えているけれど、水は人間だけの物ではありません。だから私は「どうしたら、水を上手に使えるんかな。」と、少し考えてみました。

私の家では、水を大切に使うために、風呂の残り湯を洗濯に使って再利用しています。

「ちょっとした工夫だけれど、この「ちょっと」を積み重ねることが、資源を守ることに繋がっていくと思います。

けれど、これ以外には、私の家では普段「節水」などあまり気にせず使いたいだけじゃんじゃん水をつかっている…」とそんな状態が続いています。特に、私の父と兄は、歯を磨く時や手を洗う時などに水を流しっぱなしにしていることが多いです。だから、そんな時に私は、

「もったいないから止めて」

と注意をしたり、直接水道をひねったりして水を止めています。

他人の事ばかり気にしている私も、いつも完璧に節水できている訳ではありません。食器の洗い物を手伝う時などに、思わず水を出し過ぎてしまう、という事がしょっちゅうあります。

なので、私もそこは反省していき、家族一人一人にも「水」を必要以上に使い過ぎない」ということを意識してほしいと思います。

水の節約はお金の節約にもなり、一石二鳥なのです。

そして次に、水を無駄使いしないことも大切ですが、水を上手く使うには「汚さない」という事も重要なポイントとなってきます。

最初に述べたように、水は人間だけが使っている訳では無いので、周りの環境にも配慮したいものです。

そこで、私の家では、米のとぎ汁を観葉植物にやったり食器を洗う前に目立つ汚れや油汚れをふき取るなどの工夫をしています。

ほんの少し手間がかかるかもしれませんが、この一工夫をするだけでも水の汚れ方が全然違います。

例えば、洗い物や洗濯をする時に、大量に洗剤を使わないことも水をなるべく汚さないための工夫です。

以上は、私が家庭などで実際にやっている工夫ですが、他にもまだまだ「水」を上手に使うための工夫はいっぱいあるはずです。

なぜこのような工夫をしているかというと、私達人間は地球の生き物の中で最も多く「水」を使っていると思うので、だからこそ、これから先まで「水」を守らなければいけない責任があると思っているからです。

今は周りに沢山あるように感じる水ですが、いつかは無くなってしまうかもしれません。

もしかしたら、ほとんどの水が汚くなって、飲み水さえも得られなくなるかもしれません。

水も一つの資源なので、将来はどうなっているのかなんて誰にも分かりません。

だからこそ私は、これからも水を上手に使う工夫を続けて、少しでも「水」を守る力になれたらうれしいです。

佳作

命を支える水

近畿大学附属和歌山中学校　二年　野口（のぐち）　明里（あかり）

人は水がないと生きていけないと私は思います。日本は水が豊かで水道のじゃ口をひねれば飲める水がでてきます。しかし世界のほとんど国では、そんなすぐにきれいな水が手に入るわけではありません。

私は、よくテレビなどで私と同じくらいか私より小さい子供が、学校にもいかず一日中川と家を往復しているという映像を見ます。こんな映像をみると私は、日本に生まれてよかったと思います。それと同時になにかもうしわけないような気もしてきます。なぜかというと私は、よく水をだしっぱなしにしてしまうことがあるからです。世界には、こんなに水を手に入れるために苦労している人がいるのに、自分は水をだしっぱなしにしている。なんだかなさけなくなってきます。それに、この人たちは、こんなに苦労してもきれいな水を手に入れる事はできません。きちんとろかされた水を手に入れるのはとてもむずかしい事なのです。

私は、自分が生きていくために水をくみに行った事がありません。じゃ口をひねれば水がでてくる。それがあたりまえになっていたのかもしれません。だけどそれがどんなに幸せな事だったんだろうと私はテレビを見ていて思いました。

私は、水をむだにしないように生活しようと思いました。

話が変わりますが、題でもかいたように水とは命を支えているものです。そもそも地球に生命がうまれたのは水があったからです。水がなければ、人間はおろか生命すらうまれていなかったのです。人間は水分をとらないとひからびて死んでしまいます。それは動物だけではなく、植物もそうです。

しかし、そんななくてはならない水は時におそろしい事態をまきおこすことがあります。例えばまだきおくに新しい東日本大震災。東日本大震災では、津波が多くの人の命をうばいました。東日本大震災がおきて数日間はずっと津波の映像がながれていました。その映像はおそろしいものでした。水が車、人、家などあらゆるものをのみこんでいく。私はとてもこわくなりました。水とは、量が多くなりいきおいがつくと家などの大きいものもこわせるい力があるのだと。水は、人が生きていくには必ず必要なものだけど時には多くの人の命をうばう事があるのだと思い知らされました。

私は、このような事からふだんの生活でふつうにつかっている水は自然の力によっておそろしい事態をまきおこすこともあるし、そうなると人はその力にはかつことができないのだと思いました。

私は、これから水をつかうときは世界には水を手に入れるためにくろうしている人がおおぜいいるという事と、この水は場合によっては私の命をうばう事があるという事、そしてなにより水に「感謝」する事を忘れずに水をつかいたいです。

第３４回「全日本中学生水の作文コンクール」概要

第３６回「水の週間」の行事の一環として実施された作文コンクールの概要は、次のとおりです。

１　応募要領

①テ ー マ・・・「水について考える」（題名は自由）

②対　　象・・・中学生（中学生と同じ年齢の方を含む。）

③原稿枚数・・・４００字詰め原稿用紙４枚以内、日本語で表記された個人作品に限る。
題名・学校名・学年・氏名（ふりがな）を記入する。

④あ て 先・・・和歌山県庁　地域政策課
〒６４０－８５８５　和歌山市小松原通１－１
ＴＥＬ　０７３（４４１）２４２３

⑤募集期間・・・平成２４年５月１５日締切り

⑥版 権 等・・・○応募作文は自作の未発表のものに限る。
○応募作品の版権は、主催者に帰属する。
○応募作文の返却は行わない。

２　応募状況

応募学校数	応募総数	学年別		
		１年	２年	３年
校	編	編	編	編
８	３６７	１３７	１４６	８４

３　審　　査

応募作文３６７編を対象に、和歌山県審査において、優秀賞３編、入選１０編佳作５編あわせて１８編の入賞作文を決定。

（協　力　和歌山市中学校国語教育研究会）

４　表　　彰

（１）賞および賞品

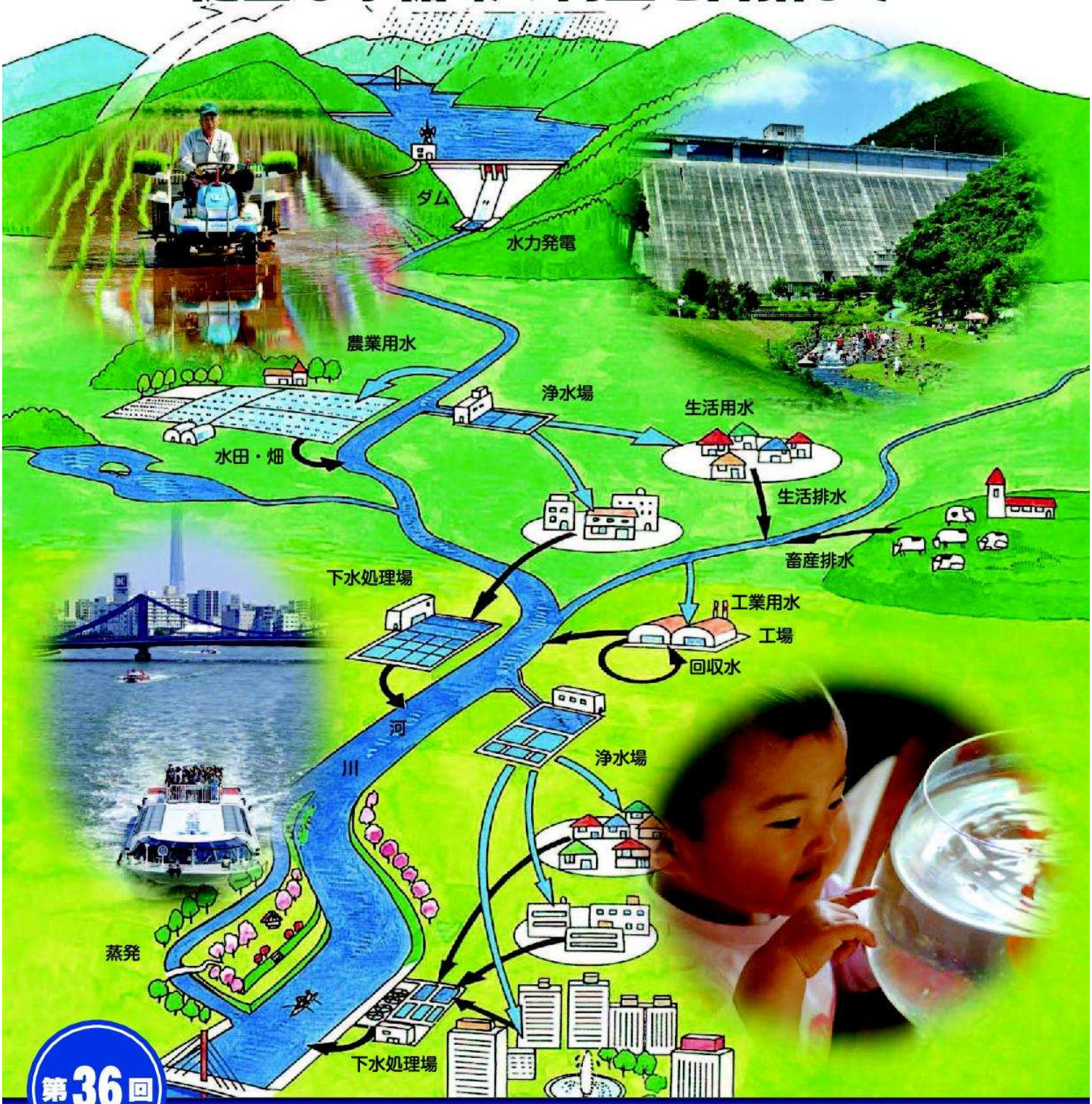
賞	賞　　品
優秀賞	賞状、図書カード
入　選	賞状、図書カード
佳　作	賞状、図書カード

（２）表彰式

優秀賞の受賞者を平成２４年８月７日、和歌山県庁において表彰

水の恵みを未来に

～健全な水循環の再生を目指して～



第36回

8月1日は　8月1日～7日は

「水の日」「水の週間」

水は限りある貴重な資源です。

「水の日」「水の週間」に関する行事等の情報は、国土交通省ホームページもしくは独立行政法人水資源機構ホームページをご覧ください

水の週間　検索

国土交通省・都道府県・水の週間実行委員会